

けないのかとも思うし……

それを変えるときに、子どもをふやして変えるというよりも、もっと社会のシステムみたいなのが変わっていかないといけません。だから、さっき話していたみたいに、男女が子育てもできるし、会社でも働けるというような本当に理想になっちゃうけど、というのを見出さないと……

・(男女が働いて、子育ても(就職も)どっちも両方どり見たいなのは)可能だとは思いますが、漠然と。

やれるときはどっちかがやって、やれないときはもう片方がやって、2人ともできなかつたら、それこそ自分の親戚だったり、例えばおばあちゃんになる人、おじいちゃんになる人あたり……。

・僕なんか小さいころずっと共働きで、血縁関係は全くないけれども、知り合いのおばさんという人が迎えにきてくれて、親が仕事から帰るまで、多分8時過ぎとかまでその家に預かってもらっていてということをしていたんで、そういうことがもうちょっとできるようになってくるんだったら……。多分昔は一つの家族が、社会とのいろいろなつながりを持っていたからこそ地域的にできたんだと思うし。それがどんどん孤立してっちゃうと、多分そういうのが難しくなって、保育園に子どもを……とって。でも、実際保育園で遅くまでやっているところがあるかという、いま少ないわけだし、どんどん保育園の数だって、それこそ少子化で少なくなってきていて選べないという状況、入れないという状況があるから、何とも言えないんですけど。どこかが抜けたら、そこをだれかがサポートするみたいな形でやっていくと、何とか回るんじゃないかなと思います。回ります。そこが中心というよりも、それよりもどちらかといったら保育園が違う形に進歩していくことのほうが、やっぱり現実的なかもしれない。実際知らない人ではないだろうけど、他人に預けて、しかも施設ではなくてというところに預けるといふの怖さは、多分今の世の中あるだろうし、ベビーシッターといっても、例えばアメリカだったら、そこですごい問題がいろいろ起きていてというのがあるから、何とも言えないのかなと思うんだけど。そういった親戚の関係が安全かなと。

#### ■その他

・自分のところしか見えていないからこそ、結局自分のところだけが大切になって、それこそ知らない人に怒られたら、「何でうちの子どもを怒るんですか」みたいになっちゃうとか、そういうふうになるんですかね。

・今の話じゃないけども、僕なんかちっちゃいころ、地域で子ども会みたいなのがあって、うちの父親だとか結構その中心になってキャンプをやったり遊んだりというのがありました。そういうときには、それこそ僕自身もそのグループの中にいる知らない大人からすごい怒られたりとかもしたし、それは当

然だناと思って、逆に自分の父親が僕の友達をめちゃめちゃ怒ってしかっているという状況も見たりして、でも、「何でうちの子を」と言う人はいなくて、だから、今そういう話を聞いたりすると、多分いろんな地域の人との関係がないからこそ、そういうものがわかっていないのかなという……。自分のところだけしか見えていないから、そこだけを大切にしなければいけない……。大切にするという意識が、自分の子しか見えてないから、そこだけに全部注がれていて……。

怒るという話になると、何で怒るかといったら、やっぱりちゃんとしてほしいから、大切に思っているからこそ怒るわけで、怒（いか）ってムカついたから怒っているということは絶対ないと思うんですね。それこそ教育ということに関して、だから、それを勘違いしちゃっている人が多いのかなという……。

・(子どもは)できなかつたら、でもそうなったときで、おれもいま自分で言っただけで、できないという可能性もあるわけで。

・それはそれで、別に血縁関係がなくても、自分がそこに喜びを見出せるんだったら、僕は(養子でも)いいかなと思っています。でも、そこまでして、自分たちの血縁の子どもじゃなくて子どもを欲しいかどうかというと、まだちょっとわからない。そういう意味では、例えば夫婦だけで暮らしていくというのも一つありかなと思います。

・多分今ここで全員が理想ならば子どもを持ちたいと言っているという状況を考えてときに、持ちたくないという要素は現実的にはすごい少ないんじゃないかなと思う。1人で生きていきたいという要素はすごく少ないんじゃないか。それよりも現実を考えたときに持てないだったり、もっと違うことがやりたいから、比べたときに結果として持たないという選択があるだけで、理想を言ったら持ちたいという人がいるんだろうから、その比べるという状況が生まれるというその根源をどうにかしないと変わらないのかな。

逆に、比べてどっちかを切り捨てなきゃいけないという状況が少なくなってくれば、その度合いが減ってくれば変わるのかなと僕なんかは思いました。実際のところ、本当に持ちたくないと言い切る人はそうはいないと思うんですね。多分動物的にではないけど、そういうところでやっぱり根源的にはみんな持ちたいと思うんですよね。ただ、持てない。

・僕ばかり言ってあれだけど、さっき僕らが家事をやることに抵抗がないという世代という要素が、もしこの年代が社会の中心になってくる年代になったら、もしかしたらそこら辺の意識が多少は変わるんじゃないかな。いま社会の中心にいる人間、そういう決まり事みたいなのを統括している部分にそういう意識が薄かったりすると、例えば周りのそういう目が出てきたりだとかというもののかな。

ただ、それがずっとあるところではやっぱり受け継がれていくではないけど、そういう関心みたいなものが残っていくようだったら、それはわからないけれども……。でも、社会に入る直前の僕たちみたいなのが、多分どちらかという子育てに関してポジティブな意見を持っている人が多かったと思うんですけど、全体的にそういうふうになっていくとしたら、多少なりとも意識が変わってくるのかなと思います。

でも、そうじゃない意識の中にこれから入るわけだから、そうしたときに、そういった考え方をもち続けることができるかということも実際問題はあるだろう。どちらかといったら、今の世の中の考え方が強いというか、しっかりしたと言ってしまうけど、崩しにくいものだと思うんですよね。だからこそ、それを崩せるかどうかというのはわからない。

・私はかぎっ子だったんですけど、でも、学童保育とかに行ったりして……。友達がいっぱいいたし、かぎっ子でも別に寂しくないというか、かぎっ子ならかぎっ子の時間帯は別のところで楽しんでいたというのもあるんで……。5時までかな。学校が終わった時点で家に帰らずに、僕は家のほうが近かったんだけど、学童に行って荷物を置いて、学童の中で遊んでいるときもあれば、みんな外へ行ってドッジボールをやったりとかということもあって。それが5時で終わって、5時になったら家に帰る。それぞれが家に帰って、僕の場合なんか親が帰ってくるのが6時過ぎとかだったから、5時に帰ってから1時間ぐらいは1人でいたり、兄貴がいたんで兄貴と一緒にいたりとか、家の中でテレビを見てたり、おなか減ったら何かあさってつくってとか、そういう感じでした。

## PART III

### 平成 17 年度アンケート調査編

# 子どもの価値と育児に関する意識 アンケート調査

## 1. 調査の概要

本研究において実施した調査対象は、当初は男性のみと考えていたが、比較の必要から、女性も対象とすることとした。

調査手法は、インターネットを用いたアンケート調査であった。インターネットで調査をする前に、通常郵送調査法あるいは訪問調査票の際に用いる調査票と同様のものを作成し、これをhtml言語に落として調査画面とした。

インターネット調査の信頼性については、下記のJIL報告書による検討が現時点では最も適切な参考資料となる。

労働政策研究・研修機構、2005年、『インターネット調査は社会調査に利用できるか：実験調査による検証結果』労働政策研究報告書No.17.

この報告書によれば「インターネット調査は、現段階では、従来型調査の代用として何の留保もなくそのまま用いることは不適切である」（労働政策研究・研修機構、2005、p.2）とされる。

従来型調査との違いとしては、高学歴、労働時間が短い、不安・不安が強いと言った特徴が、モニターを使ったインターネット調査において観察されている。

そして、この手法による調査の不完全さを補うための方法としては、ウエイト付け等の補正を行うことが考えられるが、この報告書で「複雑な補正を施すことは、少なくとも補正方法についてのコンセンサスが形成されていない現状では望ましくないと考える」（p.7、p.240）とされているように、ウエイト付けを行うことは非常に慎重になる必要がある。

また、今回の調査では、性別・年齢・婚姻状態・子どもの有無をコントロール変数としてモニターを募集したため、補正を行うに適切な、信頼度の高い全国規模の属性情報が手に入らない。具体的には、婚姻形態別の子ども的人数について、男女年齢別に全国規模の信頼性の高いデータを入手することは困難である。

こうしたことから、本調査においては、ウエイト付けは行わずに、インターネット調査による回答者属性の偏り（学歴、婚姻形態の分布、所得）についての他の調査との比較を提示し、それを留意した上での結果を見ることとしたい。

## 1-1. 調査の実施

調査手法：民間調査会社のモニターを使用したインターネット調査

調査期間：2006年3月3日（金）～3月7日（火）

調査地域：全国

調査対象者の選定基準：コントロール変数

調査対象者は、性別（男・女の2カテゴリー）×年齢（20～49歳までの5歳階級別の6カテゴリー）×婚姻状態子どもの有無（無配偶者（未婚・離別・死別）・有配偶者子ども無し・有配偶者子ども有りの3カテゴリー）の組み合わせそれぞれについて100件以上の回収があるよう設計を行った。

回収数と有効回答数：回収4,000件，有効回答数3,922件

調査基本項目：

- 子どもの有無と理想の子ども数
- 子育て意欲
- 子どもを持つ理由
- 子育てに関する価値観
- 育児休業制度に対する意識
- 配偶者の意向
- 少子化政策に対する意識
- 基本属性
- その他

## 2. 基本属性

### 2-1. 性別と年齢

性別及び年齢については、本調査のコントロール変数のうちの2つであって（この他のコントロール変数は婚姻状態と子どもの有無）、これにより、対象者の割合は均等に配されている（表 2-1-1）。

表 2-1-1 は、年齢 10 歳階級別の分布であるが、これを各歳別でグラフにしたものが図 2-1-1 である。これを見ると、本調査の回答者の分布では、29 歳の男性と、24 歳の女性に特に多くの偏りが存在することがわかる。

また、全国のデータ（国勢調査の平成 17 年 10 月 1 日人口、図 2-1-2）と本調査の回答者を比べると、本調査の回答のほうが、40 歳代の回答者が多く、30 歳代前半の回答者が少ない。特に 30 歳代前半の回答者は、第二次ベビーブーム世代が該当し、相対的に人口が多い層であるため、こうした出生コーホートのサイズを考慮に入れずに対象者数を等価に配分した本調査ではこうした層が全国と比較すると小さめになる。

図表 2-1-1 性別、年齢 10 歳階級別回答者の割合

	20歳代 (%)	30歳代 (%)	40歳代 (%)	合計 (実数)
男	33.2	33.3	33.5	1,974
女	33.3	33.1	33.6	1,948
合計	33.2	33.2	33.6	3,922
参考:国勢調査(平成17年)	31.3	37.0	31.7	49,927,742

図 2-1-1 性別，年齢各歳別回答者（人）

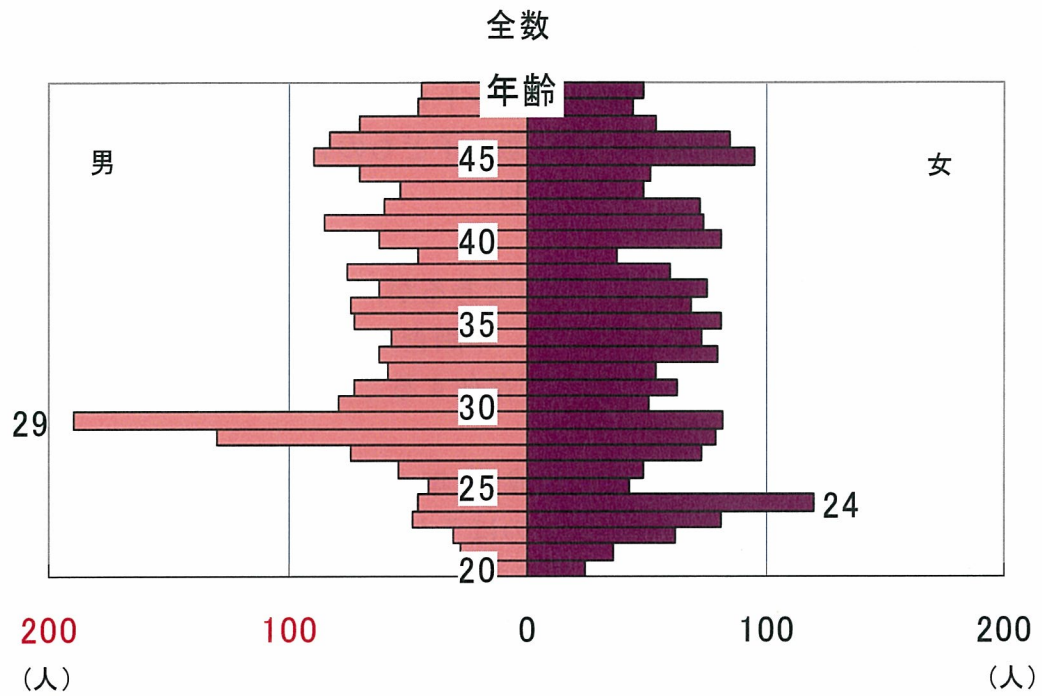
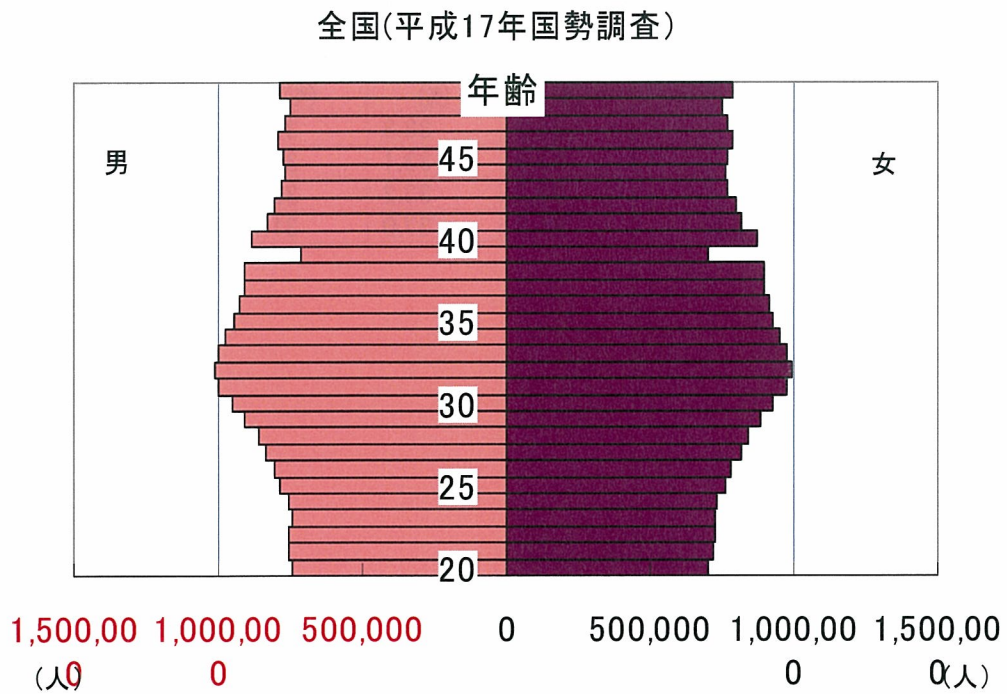


図 2-1-2 性別，年齢各歳別国勢調査人口（人，20歳～49歳）



資料：平成 17 年国勢調査報告



## 2-2. 婚姻状態

すでに述べたように、本調査では、婚姻状態を対象者選定の条件属性として設定している。そのため、本調査の対象者は、どの性別、年齢階級（5歳階級）の組み合わせでも、未婚者が全体の3分の1、既婚者が残りの3分の2を占める結果となっている（表2-2-1）。

本調査の対象者の属性分布と、一般の結果を比べると、本調査の方が年齢の若い層の未婚者の割合が少なくなっている。例えば、本調査の男性30-34歳において未婚者の割合は、31.4%であるが、国勢調査によるデータでは47.1%である。

表 2-2-1 性別、年齢別の婚姻状態

### 本調査

		未婚	既婚	離別	死別	合計 (人)
男	20-24歳	65.7	33.7	0.6	0.0	166
	25-29歳	21.9	77.5	0.6	0.0	489
	30-34歳	31.4	66.8	1.5	0.3	328
	35-39歳	31.3	66.0	2.7	0.0	329
	40-44歳	28.2	66.4	5.5	0.0	330
	45-49歳	27.1	66.6	6.0	0.3	332
	合計	30.6	66.4	2.8	0.1	1,974
女	20-24歳	34.1	65.9	0.0	0.0	323
	25-29歳	32.8	66.0	1.2	0.0	326
	30-34歳	32.7	65.1	2.2	0.0	321
	35-39歳	28.2	66.3	5.3	0.3	323
	40-44歳	26.2	67.1	6.1	0.6	328
	45-49歳	22.9	67.0	9.2	0.9	327
	合計	29.5	66.2	4.0	0.3	1,948

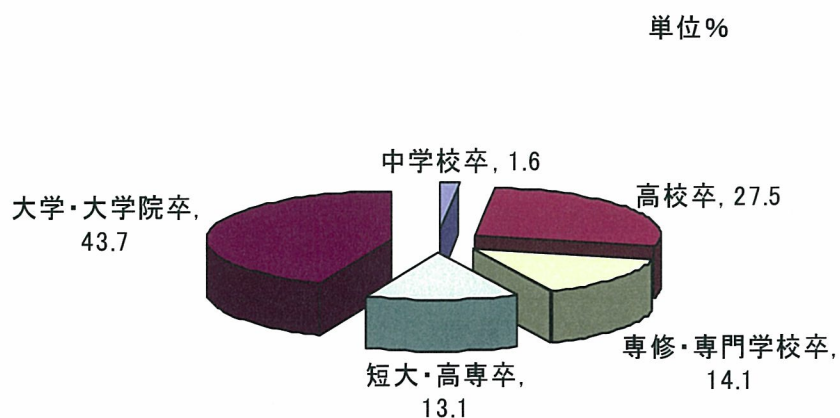
### 国勢調査(平成17年)

		未婚	既婚	離別	死別	合計 (人)
男	20-24歳	93.4	6.2	0.0	0.3	3,754,822
	25-29歳	71.4	27.4	0.0	1.1	4,198,551
	30-34歳	47.1	50.6	0.1	2.2	4,933,265
	35-39歳	30.0	62.7	0.1	3.5	4,402,787
	40-44歳	22.0	70.3	0.3	4.5	4,065,470
	45-49歳	17.1	74.9	0.5	5.0	3,867,500
	合計	46.4	49.1	0.2	2.8	25,222,395
女	20-24歳	88.7	10.4	0.0	0.9	3,595,776
	25-29歳	59.0	38.2	0.1	2.6	4,081,498
	30-34歳	32.0	62.7	0.2	4.9	4,821,592
	35-39歳	18.4	72.4	0.5	6.9	4,332,994
	40-44歳	12.1	77.5	1.0	8.0	4,015,126
	45-49歳	8.2	80.5	2.0	8.1	3,858,361
	合計	35.4	57.9	0.6	5.3	24,705,347

資料：平成17年国勢調査報告

## 2-3. 学歴

図 2-3-1 回答者の学歴



対象者の学歴では、最も多かったのが、大学・大学院卒で 43.7%であった。これに高校卒 27.5%、先週・専門学校卒 14.1%、短大・高専卒 13.1%が続く。これを男女年齢別に見ると、大学・大学院卒については、男性のほうが多く、男性の 56.4%が大卒という結果となった（図 2-3-1）。

これらの対象者の学歴は、日本の平均と比べると、高い学歴の割合が非常に高くなっている（表 2-3-1）。

その理由として、手法によるもの（インターネット調査は一般的に学歴が高くなる）、都道府県の偏りによるもの、コントロール変数の設定からもたらされるもの（婚姻状態等）が考えられる。

表 2-3-1 性別，年齢別の学歴 (%)

本調査

	合計 (人)	中学校卒	高校卒	専修・専 門学校卒	短大・高 専卒	大学・大 学院卒
男 20歳代	655	2.7	21.8	15.4	5.0	55.0
30歳代	657	1.4	23.7	14.3	5.5	55.1
40歳代	662	1.1	25.2	10.3	4.4	59.1
合計	1,974	1.7	23.6	13.3	5.0	56.4
女 20歳代	649	2.9	30.5	12.6	19.1	34.8
30歳代	644	0.5	31.8	16.3	21.0	30.4
40歳代	655	0.9	31.9	15.9	23.8	27.5
合計	1,948	1.4	31.4	14.9	21.3	30.9

国勢調査 (平成 12 年)

	総 数 (人)	卒 業 者					在 学 者	未就学者
		総数	小学校・ 中学校	高校・旧中	短大・高専	大学・大学 院		
総 数	51,819,471	95.2	7.9	45.3	18.2	20.2	4.7	0.1
20 ~ 24	8,421,460	73.8	5.8	37.0	18.7	9.9	26.1	0.0
25 ~ 29	9,790,309	98.2	6.5	41.4	23.0	22.7	1.8	0.0
30 ~ 34	8,776,610	99.4	6.5	45.6	20.5	22.6	0.6	0.1
35 ~ 39	8,114,865	99.7	5.9	48.3	18.6	23.5	0.2	0.1
40 ~ 44	7,800,219	99.8	7.8	48.3	16.3	24.1	0.1	0.1
45 ~ 49	8,916,008	99.9	14.8	51.8	11.4	18.5	0.0	0.1
男	26,197,566	94.4	9.0	44.0	9.4	28.1	5.5	0.1
20 ~ 24	4,307,242	69.8	6.8	39.0	10.5	10.8	30.2	0.0
25 ~ 29	4,965,277	97.7	7.6	42.5	13.1	29.1	2.2	0.0
30 ~ 34	4,436,818	99.3	7.8	44.4	10.9	31.5	0.6	0.1
35 ~ 39	4,096,286	99.7	6.9	45.9	8.9	34.1	0.2	0.1
40 ~ 44	3,924,171	99.8	8.9	45.1	7.0	35.4	0.1	0.1
45 ~ 49	4,467,772	99.9	15.6	47.3	5.1	28.2	0.0	0.1
女	25,621,905	96.0	6.9	46.7	27.2	12.2	3.9	0.1
20 ~ 24	4,114,218	78.1	4.8	34.9	27.4	9.0	21.9	0.0
25 ~ 29	4,825,032	98.7	5.4	40.3	33.1	16.1	1.3	0.0
30 ~ 34	4,339,792	99.4	5.3	46.9	30.3	13.5	0.5	0.0
35 ~ 39	4,018,579	99.7	4.8	50.7	28.6	12.6	0.2	0.1
40 ~ 44	3,876,048	99.8	6.8	51.7	25.8	12.7	0.1	0.1
45 ~ 49	4,448,236	99.8	13.9	56.3	17.7	8.9	0.0	0.1

資料：国勢調査 (平成 12 年)

## 2-4. 就業形態

表 2-4-1 性別、年齢別の就業状態割合 (%)

本調査

		正規の職員	パート・アルバイト	派遣・嘱託	自営業主・家族従業者・内職	無職・家事	学生	合計(人)
男	20歳代	70.7	6.1	4.0	4.3	2.4	12.5	655
	30歳代	79.1	3.7	2.6	10.8	3.5	0.3	657
	40歳代	70.2	2.9	3.2	18.9	4.7	0.2	662
	合計	73.4	4.2	3.2	11.3	3.5	4.3	1,974
女	20歳代	19.6	18.5	8.6	2.8	42.7	7.9	649
	30歳代	28.9	17.7	7.8	5.4	39.9	0.3	644
	40歳代	24.7	22.4	7.9	10.4	34.2	0.3	655
	合計	24.4	19.6	8.1	6.2	38.9	2.8	1,948

全国

		総数	正規の雇用者	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託	その他の雇用者	自営業主・家族従業者	家事をしている者	通学している者	その他の無業者
総数	総数	51,022,700	52.0	14.1	3.8	0.9	6.3	14.0	3.8	4.9
	20~24	7,973,900	38.3	20.9	4.3	0.9	1.6	4.6	21.9	7.3
	25~29	9,399,600	58.3	11.1	5.5	1.0	3.4	12.9	1.6	6.2
	30~34	9,472,800	54.5	10.1	4.0	0.8	5.6	19.8	0.5	4.7
	35~39	8,248,800	53.7	12.7	3.2	0.9	7.4	18.2	0.2	3.8
	40~44	7,786,200	53.5	15.6	3.0	1.0	9.1	14.3	0.1	3.5
	45~49	8,141,400	51.8	15.8	2.7	1.1	11.2	13.3	0.0	4.0
男	総数	25,735,700	72.2	5.8	2.5	0.9	7.2	0.3	4.5	6.5
	20~24	4,066,000	40.0	19.1	3.0	1.0	2.2	0.3	25.4	9.0
	25~29	4,756,400	74.3	6.5	3.6	1.0	4.3	0.5	2.0	7.8
	30~34	4,775,100	79.6	3.3	2.6	0.8	6.7	0.3	0.5	6.3
	35~39	4,150,300	81.1	2.2	2.0	0.8	8.3	0.2	0.2	5.1
	40~44	3,910,700	80.2	1.9	1.8	0.7	10.1	0.3	0.1	4.9
	45~49	4,077,200	76.5	1.8	1.9	1.2	12.5	0.4	0.0	5.7
女	総数	25,287,300	31.4	22.6	5.2	1.0	5.4	27.9	3.1	3.4
	20~24	3,907,900	36.5	22.8	5.7	0.9	1.1	9.1	18.2	5.6
	25~29	4,643,300	42.0	15.7	7.5	1.0	2.5	25.6	1.1	4.5
	30~34	4,697,800	29.0	17.0	5.5	0.7	4.6	39.7	0.4	3.1
	35~39	4,098,600	25.9	23.2	4.4	1.0	6.5	36.3	0.2	2.5
	40~44	3,875,500	26.6	29.3	4.2	1.2	8.1	28.4	0.1	2.0
	45~49	4,064,200	27.1	29.8	3.5	1.1	10.0	26.3	0.0	2.2

資料：総務省統計局『就業構造基本調査』平成14年

本調査対象者の就業状態を見ると、男性の場合、20歳代に学生の割合が高い。また年齢が高くなるほど、自営業の割合が高くなっている（表 2-4-1）。

女性については、特に20歳代の無業・家事の割合が、42.6%となっているが、これは、他の年齢階級と比べても高く、また全国と比較しても高い割合である。

これはまず、対象者選定の際に、未婚者、既婚者子ども無し、既婚者子ども有りの人々をほぼ均一に対象として組み込んだために、一般の分布よりも、本調査の20歳代の女性は有配偶者及び子どものある女性の割合が高くなっていることが影響している。

表 2-4-2 就業状態（性，年齢，婚姻状態・子どもの有無別）

			合計 (実数)	正規の職 員	パート・ア ルバイト	派遣・嘱 託	自営業 主・家族 従業者・ 内職	無職・家 事	学生
総数	20歳代	未婚者	433	37.0	16.9	8.1	3.9	6.7	27.5
		既婚子無し	439	51.7	14.4	8.0	3.0	22.1	0.9
		既婚子有り	424	47.4	5.4	2.4	3.8	38.7	2.4
		合計	1296	45.4	12.3	6.2	3.5	22.4	10.3
	30歳代	未婚者	402	57.5	11.7	9.7	10.0	10.2	1.0
		既婚子無し	438	54.1	11.2	3.7	7.8	23.3	0.0
		既婚子有り	421	51.8	8.3	1.7	6.4	31.8	0.0
		合計	1261	54.4	10.4	4.9	8.0	22.0	0.3
	40歳代	未婚者	344	50.9	7.8	10.2	19.5	11.0	0.6
		既婚子無し	442	48.6	9.7	6.8	13.6	21.3	0.0
		既婚子有り	437	43.7	16.9	1.4	11.7	26.3	0.0
		合計	1223	47.5	11.8	5.8	14.6	20.2	0.2
男	20歳代	未婚者	216	36.1	14.4	4.6	5.1	6.0	33.8
		既婚子無し	219	90.0	1.4	4.1	3.2	0.0	1.4
		既婚子有り	216	86.1	2.3	3.2	4.6	0.9	2.8
		合計	651	70.8	6.0	4.0	4.3	2.3	12.6
	30歳代	未婚者	206	60.7	9.2	5.8	14.6	8.7	1.0
		既婚子無し	220	86.4	0.9	1.4	9.5	1.8	0.0
		既婚子有り	216	89.8	1.4	0.9	7.9	0.0	0.0
		合計	642	79.3	3.7	2.6	10.6	3.4	0.3
	40歳代	未婚者	183	53.0	8.2	4.9	23.5	10.4	0.0
		既婚子無し	221	77.4	0.5	3.6	16.3	2.3	0.0
		既婚子有り	219	79.5	0.0	1.8	17.4	1.4	0.0
		合計	623	70.9	2.6	3.4	18.8	4.3	0.0
女	20歳代	未婚者	217	37.8	19.4	11.5	2.8	7.4	21.2
		既婚子無し	220	13.6	27.3	11.8	2.7	44.1	0.5
		既婚子有り	208	7.2	8.7	1.4	2.9	77.9	1.9
		合計	645	19.7	18.6	8.4	2.8	42.6	7.9
	30歳代	未婚者	196	54.1	14.3	13.8	5.1	11.7	1.0
		既婚子無し	218	21.6	21.6	6.0	6.0	45.0	0.0
		既婚子有り	205	11.7	15.6	2.4	4.9	65.4	0.0
		合計	619	28.6	17.3	7.3	5.3	41.2	0.3
	40歳代	未婚者	161	48.4	7.5	16.1	14.9	11.8	1.2
		既婚子無し	221	19.9	19.0	10.0	10.9	40.3	0.0
		既婚子有り	218	7.8	33.9	0.9	6.0	51.4	0.0
		合計	600	23.2	21.3	8.3	10.2	36.7	0.3

有配偶の子どもを持っている女性の就業状態をみると、無職・家事の割合が非常に高い（20歳代 77.9%，30歳代 65.4%，40歳代 51.4%）。このように子どものある既婚女性の無業の割合は高いため、子どものある既婚女性の割合が、全国平均より多い本調査においては、20歳代の女性の無業率が高くなっている。

表 2-4-3 子持ち女性の就業状態（本人の年齢，一番下の子どもの年齢別）

		正規の職員	パート・アルバイト	派遣・嘱託	自営業主・家族従業者・内職	無職・家事	学生	合計
20歳代	0歳	6.6	3.9	1.3	2.6	85.5	0.0	76
	1～2歳	5.9	10.8	2.9	2.9	73.5	3.9	102
	3～5歳	13.8	13.8	0.0	3.4	69.0	0.0	29
	6～12歳	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	5
	合計	7.1	9.0	1.9	2.8	77.4	1.9	212
30歳代	0歳	19.4	3.2	0.0	6.5	71.0	0.0	31
	1～2歳	10.3	8.8	1.5	2.9	76.5	0.0	68
	3～5歳	14.5	16.4	7.3	1.8	60.0	0.0	55
	6～12歳	9.4	28.3	0.0	9.4	52.8	0.0	53
	13歳以上	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	7
	合計	13.6	15.9	2.3	4.7	63.6	0.0	214
40歳代	0歳	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	1
	1～2歳	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	3
	3～5歳	18.8	12.5	6.3	6.3	56.3	0.0	16
	6～12歳	11.0	38.5	0.0	4.4	46.2	0.0	91
	13歳以上	14.9	34.5	1.4	8.8	40.5	0.0	148
	合計	13.5	34.4	1.2	6.9	44.0	0.0	259

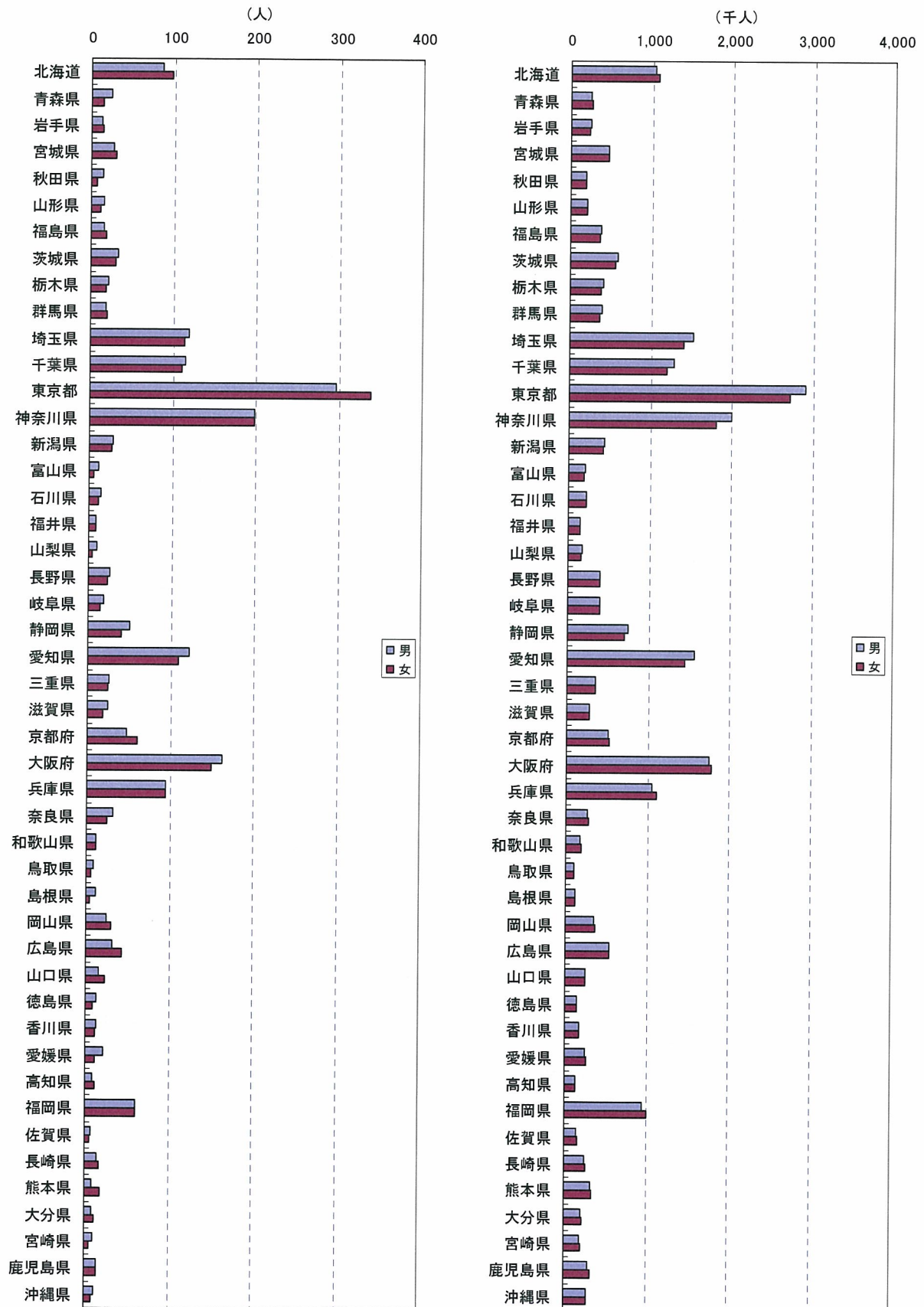
さらに子どものいる既婚女性について，一番下の子どもの年齢別に見てみると，子どもが小さいほど，無職・家事の割合が高い。子どもの年齢が高くなるに従ってこの割合は低下し，有業者，中でもパート・アルバイトとして働く人が増える。

着目すべきは，正規の職員の割合については変化がない点である。子どもが大きくなったとしても，正規の職員という立場を保有（ホールド）していない限り，こうした職は得にくい点がこのことから推測されるところである。

## 2-5. 居住地域

調査対象者の居住地域（都道府県）については，図 2-5-1 の通りであって，全国平均と比べると，男女ともに，東京都及び神奈川県の高齢者の割合が高い。

図 2-5-1 性別 都道府県別の回答者（人），左が本調査，右が H17 国勢調査



## 2-6. 年収

就労者の個人の年収（昨年 1 年間）について見てみると、男女で大きく差がある（図 2-6-1）。

男性の平均年収は 504.6 万円、女性の平均年収は 267.0 万円であった。男女の年収の差は、年齢が高くなるにしたがって大きくなっている。

また、男性においては、年齢階級が高くなるにしたがって、年収が顕著に上がっている。しかしながら女性については、その伸びは小さい。このため、年齢が上がれば上がるほど、男女の年収の差が大きくなる。

図 2-6-1 性別、年齢別の就業者の平均年収

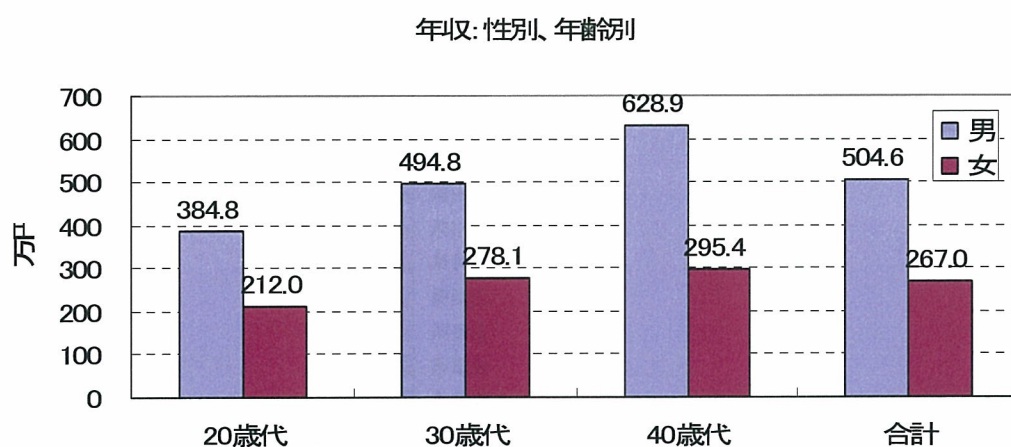
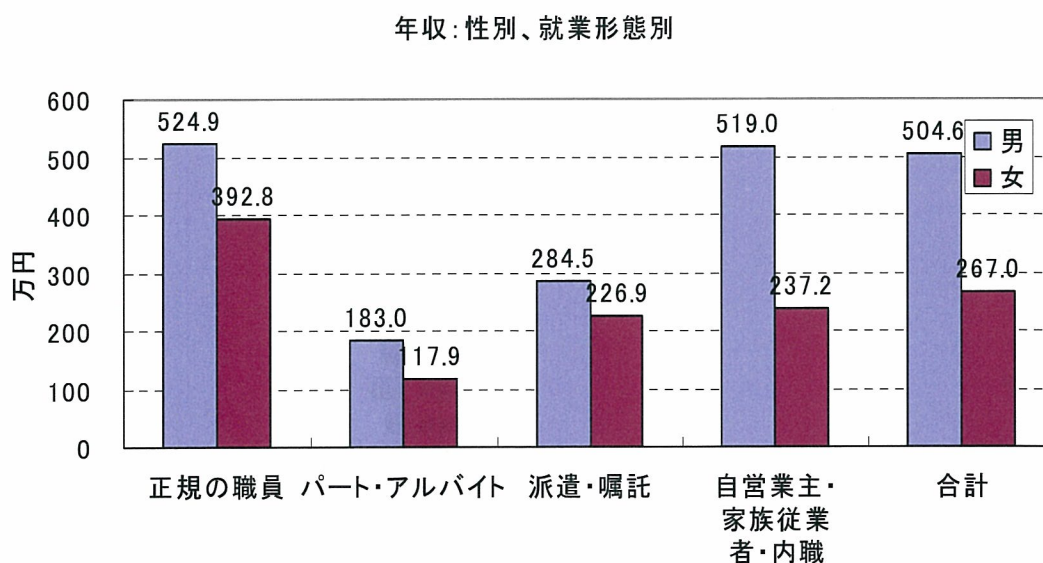


図 2-6-2 性別、就業上の地位別の平均年収





ではどうしてこのような差が大きくなるのか。その理由にはさまざまなものが挙げられるが、ここでは、就業形態の違いからくる差について指摘しておこう。

就業状態別に年収を見ると、正規の職員、自営業主・家族従業員・内職、派遣・嘱託、パート・アルバイトの順に、平均年収が高い（図 2-6-2）。

これを性別、年齢別、就業形態別に見たのが、表 2-6-1 である。

正規の職員の平均年収を見ると、年齢が高くなるにしたがって、男女とも高くなっている。

しかしながら、パート・アルバイト、派遣・嘱託の平均年収は、年齢が高くなるからといって高くなっているわけではない。パート、アルバイト、派遣、嘱託といった働き方は、日本型の年功賃金体系の外に位置するものであり、多くの正規の職員のように右肩上がりの所得が見込めるわけではない。逆に、多くの所得を得やすい正規雇用には無いメリット、たとえば労働時間・年収の調整のし易さといった事柄がパート・アルバイトには指摘されるところであるが、こうしたことから、これらの働き方の人々の所得の年功上昇は見られない。

女性の雇用形態に関する傾向としては、正規雇用以外の人（年功賃金ではない人）の占める割合が男性と比べて非常に多い。特に、既婚者のうち子どもを持っている者の、パート・アルバイト就業率が高い点はすでに指摘したところである。

このため、正規雇用とそれ以外の賃金の差が一層大きくなる年齢においては、特に男女の年収の差が大きく開く結果となっている。

表 2-6-1 就業上の地位別平均年収（万円）

		20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	合計
正規の職員	男	313.9	415.6	488.6	545.4	614.8	717.4	524.9
	女	261.2	321.6	389.1	390.9	428.4	505.1	392.8
	合計	292.7	400.8	462.6	508.8	567.5	663.0	493.8
パート・アルバイト	男	156.2	219.2	181.0	193.8	190.0	154.4	183.0
	女	120.6	114.8	124.1	95.5	137.1	112.4	117.9
	合計	127.7	141.9	135.9	110.6	138.9	118.1	128.4
派遣・嘱託	男	280.0	272.2	330.0	270.0	280.0	275.7	284.5
	女	178.6	189.1	241.6	262.3	251.4	235.9	226.9
	合計	209.0	220.9	267.8	263.3	259.7	247.5	244.4
自営業主・家族従業者・内職	男	271.7	381.7	401.3	494.6	491.9	680.9	519.0
	女	165.0	202.0	205.6	163.3	278.9	276.8	237.2
	合計	200.6	342.6	342.0	395.3	433.4	520.3	425.1
合計	男	284.1	401.3	465.8	526.5	580.9	677.3	504.6
	女	179.6	233.3	291.7	262.9	289.1	301.4	267.0
	合計	223.9	358.7	404.5	434.6	466.4	524.2	418.9

## 2-7. きょうだい数と同居家族

本調査の回答者のきょうだい数は、全体 54.4%が 2 人きょうだいで最も多く、これに、3 人きょうだい (30.3%), ひとりっこ (9.3%) が続く (図 2-7-1)。

性別、年齢別にみたものが、表 2-7-1 である。

図 2-7-1 きょうだい数割合 (%)

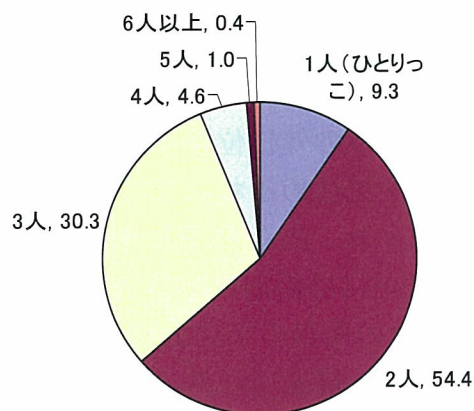


表 2-7-1 きょうだいの数 (性別、年齢別, %)

		1人 (ひとりっこ)	2人	3人	4人	5人	6人以上	合計
男	20歳代	8.2	51.8	33.3	5.5	0.9	0.3	655
	30歳代	7.9	55.6	32.0	3.5	0.8	0.3	657
	40歳代	9.7	53.5	29.2	4.8	2.1	0.8	662
	合計	8.6	53.6	31.5	4.6	1.3	0.5	1,974
女	20歳代	10.8	51.8	32.0	4.3	0.9	0.2	649
	30歳代	9.2	57.9	29.2	3.1	0.2	0.5	644
	40歳代	10.2	55.7	26.1	6.3	1.1	0.6	655
	合計	10.1	55.1	29.1	4.6	0.7	0.4	1,948

図 2-7-2 同居家族形態 (%)

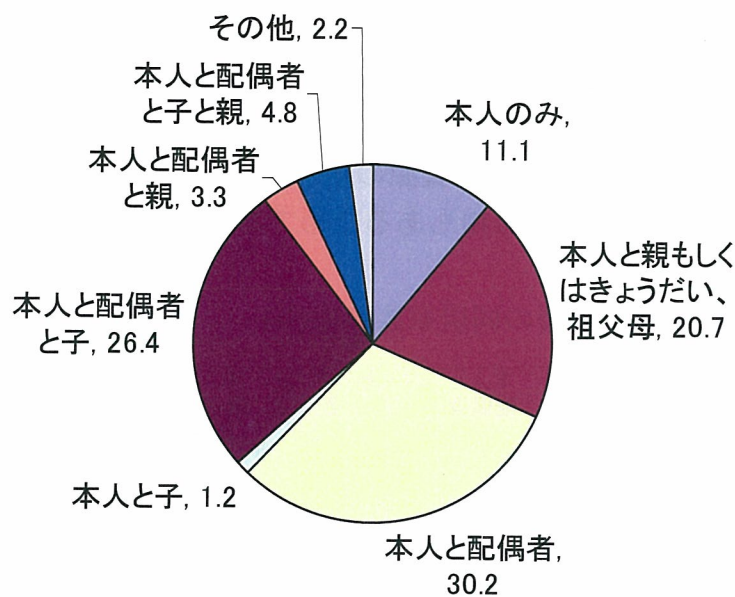


表 2-7-2 婚姻状態・子どもの有無別，年齢別の同居家族形態(%)

	年齢	本人のみ	本人と親もしくはきょうだい、祖父母	本人と配偶者	本人と子	本人と配偶者と子	本人と配偶者と親	本人と配偶者と子と親	その他	合計(人)
		未婚者	20歳代	28.4	66.7	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	31.3	64.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	402
	40歳代	34.0	62.5	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	2.3	344
	合計	31.0	64.8	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	3.2	1179
既婚者子なし	20歳代	0.5	1.4	88.2	0.0	0.2	7.5	0.0	2.3	439
	30歳代	0.7	0.9	90.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.5	438
	40歳代	0.9	0.7	86.7	0.0	0.5	10.9	0.0	0.5	442
	合計	0.7	1.0	88.2	0.0	0.2	8.8	0.0	1.1	1319
既婚者子あり	20歳代	0.9	0.2	0.7	0.5	83.3	0.9	11.8	1.7	424
	30歳代	0.5	0.0	0.2	0.0	85.3	0.7	12.1	1.2	421
	40歳代	0.5	0.0	2.5	1.8	73.7	1.4	19.9	0.2	437
	合計	0.6	0.1	1.2	0.8	80.7	1.0	14.7	1.0	1282

また，同居家族についてたずねた結果が図 2-7-2 である．これを性別及び婚姻状態・子どもの有無別に見たのが表 2-7-2 である．

これを見ると，未婚者については，男性は 60.7%が女性は 69.2%が親と同居しており，なかなか未婚者の離家が進んでいないことがわかる．これを詳しく見ると（表 2-7-3），年齢が高くなるにしたがって，本人のみの割合が高まるが，40 歳代であったとしても，男性の場合は 37.7%，女性は 29.8%であってそれ以

外はほぼ親と同居している。

未婚者以外（既婚者子なし，既婚者子あり）を見ると，年齢が高くなるにしたがって，親と同居する割合が高くなる．これは子どもがいるほうが顕著であるが，子どもがいなくともそのトレンドはある．

このことは，親との同居が，子育て資源の増加という側面もあるが，親の面倒を見る（潜在的にでも）という理由もあるためである．

表 2-7-3 性別，年齢別の未婚者の同居家族形態(%)

		本人のみ	本人と親もしくはきょうだい、祖父母	本人と配偶者	本人と子	本人と配偶者と子	本人と配偶者と親	本人と配偶者と子と親	その他	合計(人)
男	20歳代	33.8	62.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	216
	30歳代	36.9	60.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	206
	40歳代	37.7	59.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	2.7	183
女	20歳代	23.0	71.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	217
	30歳代	25.5	68.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	196
	40歳代	29.8	66.5	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	161